

## 4月のピックアップコーナー

### 『フィンランド』

照井 菜穂子

フィンランドの映画監督アキ・カウリスマキの「過去のない男」という映画をご存知でしょうか。ヘルシンキ駅近く、夜の公園。ひとりの中年男性が暴漢におそわれ記憶をなくしてしまいます。記憶もない、お金もない、住む家もない。周囲の人々のささやかな好意に助けられながら、彼は自分の生活を少しずつ作り上げていきます。それは周りの人々と同じような、小さな喜びを大切にしながら淡々と生きる慎ましい暮らし。定職がなくても名前がなくても、悲嘆せず恥じ入らず前向きにものを考え、女性まで口説いてしまいます。映画ですから(しかもアキ・カウリスマキですから)淡泊さも誇張されていると思いますが、この映画のなかにフィンランド人の国民性を少しかいま見た気がしました。温厚で寡黙、感情を強く表さずひかえめ。その反面、圧力に屈しない精神的な強さと頑固さ、腰の重さ。ステレオタイプの見方ですが、こうしたフィンランド人の物腰に、日本人は大変親しみを感じてしまいます。ムーミンやサンタクロース、高度福祉社会の国として昔から日本に知られていたフィンランドですが、ここ数年はさまざまな分野で注目されています。町の雑貨売り場で見かけるカラフルなファブリックのマリメッコ、シンプルなガラス製品のイッタラ、かわいらしい絵柄の陶器アラビア。かたや、生産量世界一の携帯電話ノキア、オープンソースのOSリナックス。そして、PISA(学習到達度調査)テストナンバーワンの教育水準。世界からフィンランドに向けられる期待と注目度は年々高まっています。共通点の多い国民性なのに、将来的な展望においてフィンランドに大きく水をあけられた感が否めない日本。所得格差や年金問題等の社会問題を考えると気持ちもつひ暗くなりがちです。こんな時こそ、悲嘆せず恥じ入らず前向きにものを考えていきたいですね。

てるい なおこ(係・情報サービス課)

## 図書館《私の使い方》

寺西 由起

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。新たな生活が始まり、希望で胸がいっぱいのことと思います。皆さんにこれから始まる大学生活を充実したものにさせて頂きたく、大学での私のオススメの場所を紹介したいと思います。私のオススメの場所はいくつかありますが、中でもイチオシなのは図書館です。図書館は一見すごく静かで、そのような雰囲気は苦手という方もいらっしゃるかと思います。実は、私もその中の一人でした。

しかし、ビジュアル資料閲覧室のビジュアル本コーナーに立ち寄ってみると、そこには今まで訪れた図書館では見かけなかった本たちがズラリと並んでいました。世界の料理本から、とても興味深い部屋のデザイン、家具や雑貨などが載っている本まで様々なものがあります。ビジュアル本コーナーはキレイな絵や写真が多く載っている本ばかりを揃えているので、絵や写真を見るのが好きな方には本当にオススメです! また外大ということもあり、世界の絶景などの本も揃っています。それを勉強の合間に見ると癒されます。

図書館は、自習や課題をしたり、レポートの本を探す場であるばかりでなく、趣味を広げたり、安らげる場でもあると思います。

ぜひビジュアル本コーナーにも立ち寄ってみて下さい。きっと何か新しい発見があると思います。

てらにし ゆき(2007年度英米語学科卒業生)